

二〇二二年二月一九日

剪定の済みたる小路浅間見ゆ

愛 正

くれないのおちよぼ口見せ梅ふふむ

む べ

春寒や頬さす風の尖りをり

わかば

手習ひの窓の下なる猫の恋

よし子

鶯の声の過ぎりし切通し

素 秀

シヨベルカー雪解河原に動き出す

こすもす

小流れの光に遊ぶ春の鳥

む べ

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二二年二月二〇日

せせらぎの奏でそめたり落の臺

素 秀

白寿なる友健やかや梅の句座

こすもす

木喰仏の虫食ひの面あたたかし

うつぎ

淡雪の竹林駈くる人力車

凡 士

焼網に身を振りあふ霰餅

愛 正

神木の千手を翳す芽吹きかな

うつぎ

よく空いて春日の席を置く電車

よう子

盆梅に括るうぐひす飛ぶ構へ

なつき